
「脆弱性骨盤骨折症例の歩行を中心とした移動能力の経過と阻害要因」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、【埼玉医科大学総合医療センター研究倫理審査委員会】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2021年4月1日～2024年2月29日の期間に脆弱性骨盤骨折の診断で埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センターへ入院された患者さんのうち、骨盤骨折を主とした理学療法（Physical Therapy: PT）が行われた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

脆弱性骨盤骨折（Fragility Fractures of the Pelvis: FFPs）は、立位や歩行時の転倒、時に受傷機転が不明など、低エネルギー外傷で発症する、高齢者特有の骨脆弱性の骨盤骨折です。

脆弱性骨盤骨折では骨癒合までの経過で、日常生活活動の自立度や範囲の拡大、活動量の増加のために歩行能力向上を目的としたリハビリテーションの介入が重要となります。

本研究では、脆弱性骨盤骨折の方の歩行を中心とした移動能力の経過と阻害となる要因を調査し、課題を明らかにすることを目的とします。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年4月4日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション部】において、研究責任者である荒木心太が管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

脆弱性骨盤骨折病と診断された患者さんの検査や評価等を実施した際に生じたデータおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者：

埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション部
理学療法士 荒木心太

研究実施者：

埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科
埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション部：兼担）
理学療法士 講師 師岡祐輔
埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科
医師 教授 大林茂
埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター
医師 講師 上田泰久

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長 別宮好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

連絡先

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 荒木心太

TEL：049-228-3529（直通）（平日 8 時 30 分～17 時 30 分）

○研究課題名：脆弱性骨盤骨折症例の歩行を中心とした移動能力の経過と阻害要因

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 荒木心太